

専門性の進化と インストラクショナルデザイン

質の高い幼児教育を実現する「往還型」の学びと実践的設計論

対象：ミドルリーダー（在職12年以上 / 幼稚園教諭2種免許保持者など）

岐阜県「教員のキャリアステージ」資質充実期・貢献期 対応



「量」の拡充から「質」の向上へ。 今、求められる新たなリーダーシップ

幼児教育を取り巻く社会的な課題は、人材の「質」の向上へとシフトしています。特にミドルリーダー層には、自身の保育スキル向上だけでなく、地域や園全体の教育力を底上げする力が求められています。



Goal

幼稚園教諭2種免許から
1種免許への上進



Awareness

国内外における幼児教育の
重要性の再認識



Action

新たな学びを創造する
資質の獲得

幼児教育コーディネータとは何か？

地域・学校園における幼児教育の研修及び専門的指導を担う人材

01

計画立案・実践能力



研修講座を企画し、実行する力。

02

組織化



地域や園のスタッフを巻き込み、
保幼小連携などを推進する力。

03

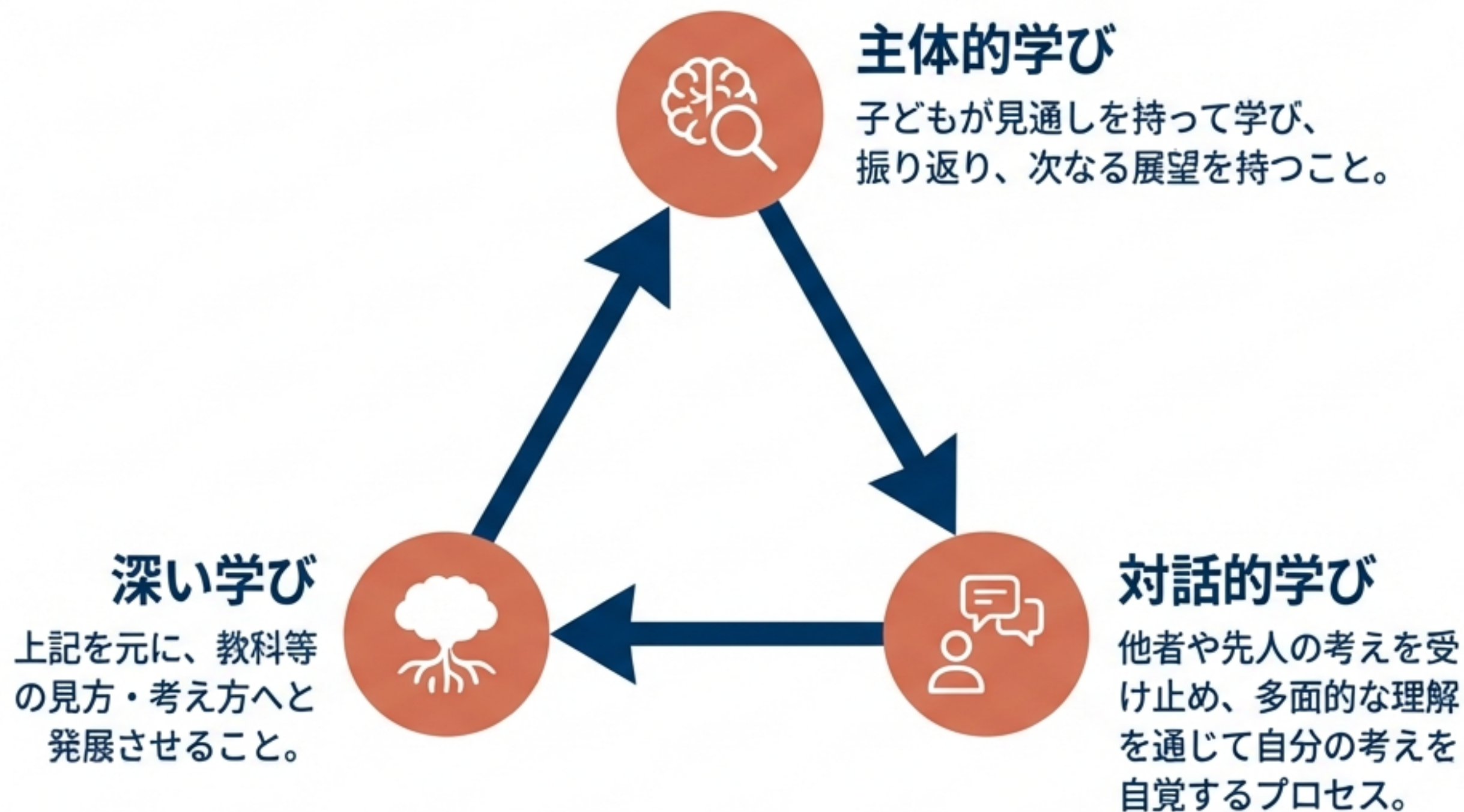
課題解決への対応力



地域課題に対し、具体的に対応
できる力。

単なる「教える人」ではなく、教育環境全体をコーディネートする「設計者」への転換です。

教育の根幹にある「主体的・対話的で深い学び」

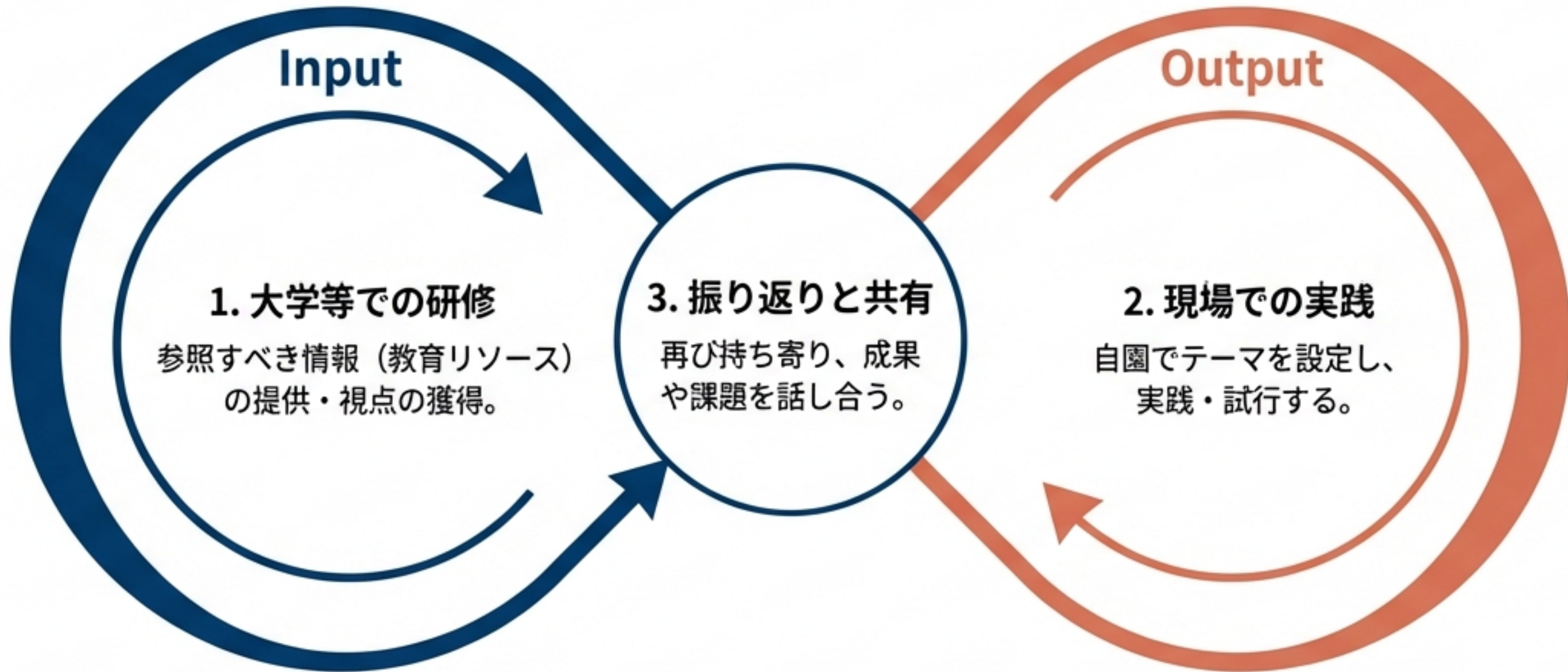


Note:

これは「新しい指導法」の導入ではなく、既存の実践をより「自覚的」に行うための授業改善の視点です。

研修のニューノーマル：「往還型」研修モデル

講義によるインプットと、現場での実践（アウトプット）を繰り返すことで、学びを定着させる手法。



「研修を受けた個人の努力」任せにせず、組織としての質の改善を確実に生み出す仕組みです。

150時間のカリキュラム構成と「独自設定」領域

領域・保育内容の指導法

教育の基礎的理解

道徳・総合学習

教育の方法・技術

【講義】教材開発の基礎としてのインストラクショナルデザイン

幼児理解 / 教育相談

本学が独自に設定した「**インストラクショナルデザイン指導力**」。
学習成果のエビデンスに基づく効果的な実践を普及させる力です。

Total: 7科目 150時間

インストラクショナルデザイン（ID）とは？

**「教育活動の効果的・効率的・魅力的な学習環境を
デしていくための手法を集大成したモデルや研究分野」**

(Suzuki 2005)

**何を（What）
できるようにするのか？**



**どうやって（How）
できるようにするのか**

ルールに基づいて体系的に考える

授業設計だけでなく、「学習環境」そのものを広く捉えてデザインします。



IDが目指す3つのゴール

効果的 (Effective)



学習目標に確実に
到達すること。

効率的 (Efficient)



無駄なく、短時間で習得
できること。

魅力的 (Engaging)



「もっと学びたい」とい
う意欲を引き出すこと。

教員研修プログラムや映像教材を開発する際、この3点を満たすように
設計することで、質の高い教育が実現します。

IDプロセスの基本モデル：ADDIE



教材開発を5つの段階に分け、系統的にアプローチする方法です。評価から分析へ戻るサイクルにより、継続的な改善（ブラッシュアップ）が可能になります。

「分析」と「設計」：作る前の最も重要なステップ

Phase 1: Analyze（分析）

学習者の特性や教育内容を分析する。

「学習者は今、どのような状態か？」 「何を学ばなければならないか？」

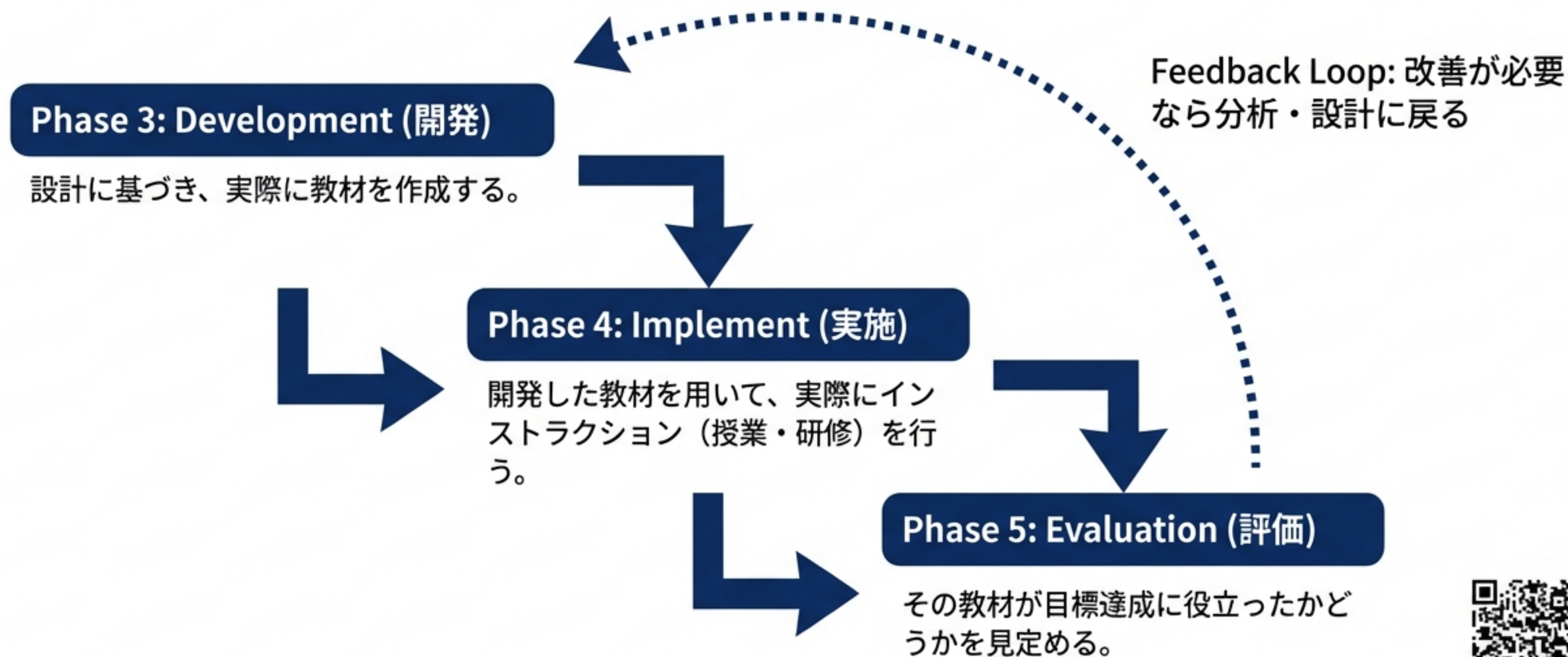
Phase 2: Design（設計）

目標を設定し、評価方法と
インストラクションの手法を決める。

重要：学習目標と評価方法を一致させる

「何ができるようになってほしいか」を明確にし、
それをどう測るか（テスト、アンケート等）を
先に決めてから、教え方を考えます。

「開発」から「評価」へ：実践と改善のサイクル



ID応用編①：教材開発の広がり



Case A

理科の実験器具の使い方を示す映像教材

Case B

映像を使わない実験単元の構成

どんなメディアや形式であっても、「目標達成のための手段」として最適化されているかを問うことができます。

ID応用編②：ICT活用の落とし穴と正解

The Pitfall (Tool-Oriented)



「ICTをどう活用するか？」からスタートしてしまう。

Consequence: 手段が目的化してしまう
(Using tablets just because they are there).

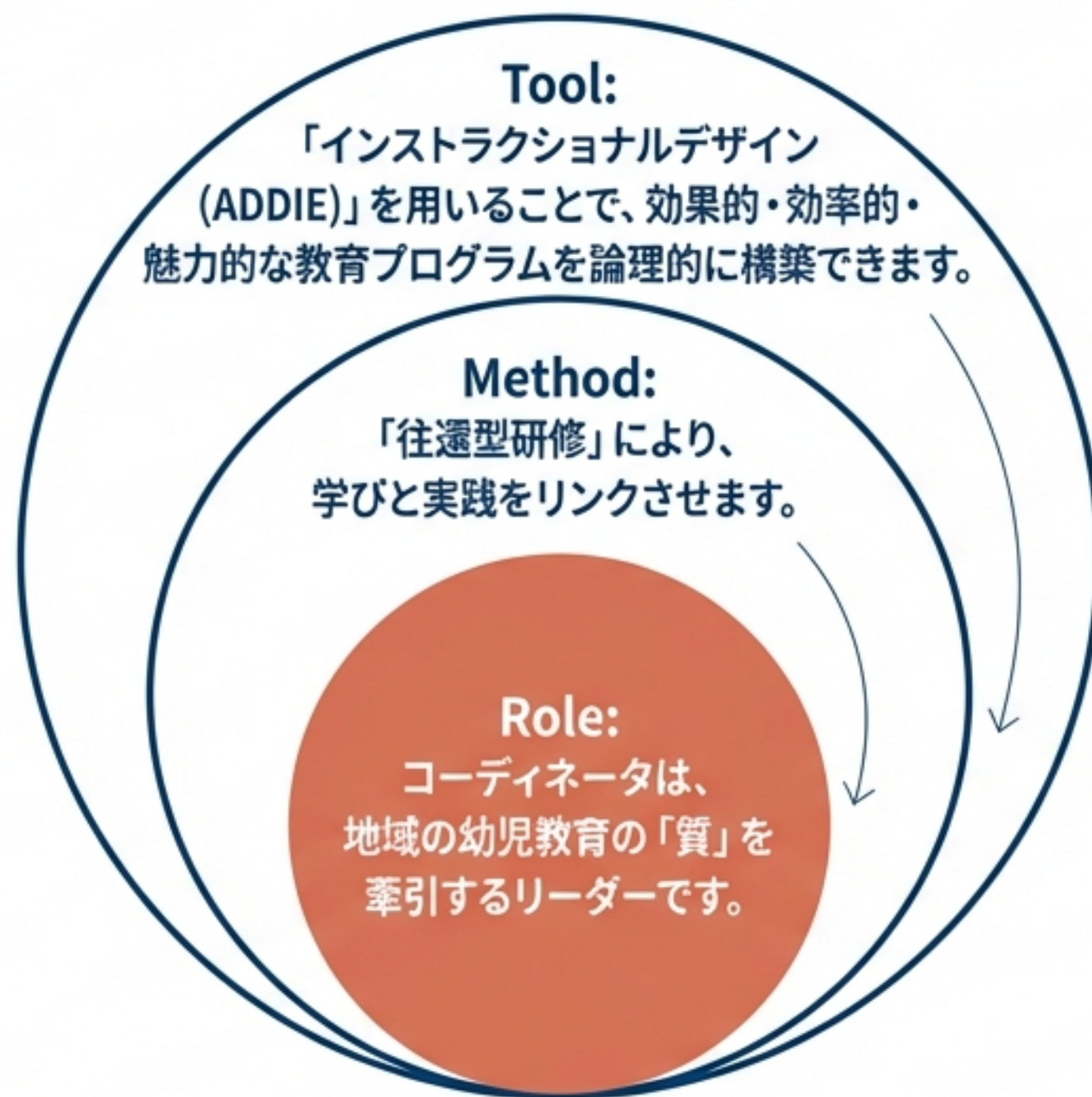
The ID Approach (Goal-Oriented)



1. Goal: 達成したい学習目標を決める。
2. Eval: 評価方法を決める。
3. Method: 目標達成のための方法を検討する。
4. Selection: **その選択肢の一つとして、初めてICTを検討する。**

教室のメディアや時代が変わっても、IDの考え方（目標・評価・方法の整合性）があれば、授業は常にブラッシュアップできます。

質の高い学びをデザインするコーディネータへ



学習支援の理論（ガニエの9教授事象など）も参考にしながら、
普段の授業を振り返る「視点」としてIDを活用してください。

振り返りと課題

☒ Q1. 幼児教育コーディネータに求められる資質・能力とは？

Hint: 計画立案、組織化、地域課題への対応。

☒ Q2. インストラクショナルデザイン指導力について、具体例を挙げて説明してください。

Hint: エビデンスに基づく効果的な実践の普及。

☒ Q3. インストラクショナルデザインを活用した授業改善について、具体例を挙げて説明してください。

Hint: 目標と評価の一致、ICTの適切な選択など。
